

県内各地で「であい」の場を提供



五感を刺激する「わらべうた」の舞台を楽しむ親子ら

NPO法人こども未来ネットワーク（渡部万里子理事長）は、子どもたちが生き生きと過ごし、さまざまな体験を心と身体に重ねてほしいとの思いから「であい」の場を県内各地で提供している。

設立は2002年。県内全域で子どもの育ちを支えようと立ち上げた。現在、約80組の正会員・サポーターがいる。

活動は、地域や幼稚園・保育園にプロの舞台を提供するアーティスト紹介事業、0、1、3歳児のための舞台を上演するアーティスト公演、アーティストフォーラム開催などの「アートプロジェクト」、子どもたちとメディアの付き合い方を考え

る出前講座や接し方学習会などを行う「メディアプロジェクト」、木のおもちゃやアナログゲーム体験会、貸し出しを行う「トイプロジェクト」を柱に取り組んでいる。

「一見それぞれの事業が独立しているように見えるが、各事業が連動しながら動いている」と説明する渡部理事長。アーティストスタート実施には、子ども時代に本物のアートに触れるなどたくさんの実体験をしてほしいという願いがある。「年齢に合った作品に出会えるかどうか」と



木のおもちゃに触れ合う体験会に参加して遊ぶ子どもたち



メディアとの関わり方などについて学ぶ参加者

でも重要。親にとっても子どものことをより知るきっかけにもなる」と子どもの感性を育てる大切さを挙げる。そのためにテレビの時間、携帯、インターネットなどメディアに触れる時間を少し抑えてもらう。また、それに代わる遊びを考える中で、アナログゲームなどを提案したり、子どもの遊ぶ力を引き出すおもちゃの体験会などにも力を注いでいる。

現在、メンバー自らが出掛け、地域が主体となって取り組む事例が増え、紹介事業、講師の派

遣などが多くなっている。渡部理事長は「人を育てる、場を育てる、地域を育てる」という活動を長く続けてきた結果、コーディネートにまわられるようになってきた」と事業の広がりを楽しぶ。

こども未来ネットワークは県内全域に会員がいて、さまざまな事業を県内各地で行えるという他のNPOにはない特徴がある。渡部理事長は「今後も単なる育児支援ではなく、親子で向き合える子育てを応援していきたい」と話している。

NPO法人「こども未来ネットワーク」の事例

代表者のコメント

理事長 渡部万里子さん



子どもたちにいきいきとした子ども時代を過ごしてほしい。仲間や家族、地域の人たちの関わりの中で、さまざまな体験を重ねてほしい。私たちはそのためのお手伝いを県内全域で行い、子どもの育ちに関するあらゆる活動に取り組んでいます。「幼い時にこそ、心の深いところを揺り動かす『ほんもの』と出会い、人のぬくもりが感じられる体験をしてほしい」私たちの活動がその手助けになることを願っています。



NPO法人 こども未来ネットワーク

〈概要〉 ●所在地:倉吉市湊町454の12
●代表者:渡部万里子
TEL 0858-22-1960 FAX 0858-27-0271
ホームページ <http://kodomomirai.kirara.st/>